



在校生にむけて・・・

幻の 答辞

笹の根

笹原中学校 第1学年 学年通信 第23号 令和2年 3月26日 (木)

卒業生のこぼれ

「あいさつ、協力、全力！」
私たちの三年間は この合い言葉からはじまりました。

声をからして歌った校歌コンテスト
我先にと競って走った食堂への階段
良く晴れた日の 山登り

ゴールして飲んだジュースの味は格別だった
部屋に戻るとドロドロのくつ下 最後までやりきったと実感しました

みんなで協力して作ったカレー 切りすぎて無くなった野菜
炊いたご飯は焦げていて 一口食べて苦いと笑い合った
途中で誰かが疲れたら 荷物を持ち背中を押した

「行事は全力で楽しむもの」
この林間学校は私たちの「あたり前」を作ってくれた

はじめての体育大会 声をからして踊った タッタ
一枚ずつタンバリンに書かれたメッセージ
太陽にかざして何度も見ていた

踊ったあとに散らばった タンバリンの破片
急いで拾ってくれた先生方の 誇らしげな笑顔が 何よりの賞賛でした

大人の本気を実感できた トライやる・ウィーク
見られていない場所で何をするのが重要
今何をするべきか 自分で考えて動くことが仕事であると実感した

はじめて厨房で一人になったとき 信頼されていると感じた
評価は他人 それがわかってはじめて一人前
返事をしていとも思っても聞こえなければ意味がない

あいさつ、返事、自分は出来ている
そう思っていることこそ子どもだと気づいた
ふと頭に浮かんだ家族の姿 感謝の気持ちが大きくなった

「自分たちが楽しむ」だけではだめだと 気付いたよきこいソーラン
見ている人に感動してもらえるように 一つひとつの動きにこだわった
毎年各クラスが燃えた ムカデ競走
よりたくさん練習できるように
どのクラスよりもはやく グラウンドに飛び出した

班で電車にのり 現地集合した校外学習
地図を見ながら 神戸の街をまわった
今までの成長を認めてもらえた気がした 自分たちだけでの班行動
学年委員で考えた

「当たり前前」のことを当たり前にもう一人の自分を持つ」のスローガン
自分たちの言葉が 学校全体に広まったとうれしくなった

最後の体育大会 雨でぬれたグラウンド

必ずやろうと励まし合って準備をした

成長していく私たちのダンスのタイトルは「GROW UP」

小さな子どもたちに人気のダンスから 大人の強い女性へ

はじめて全て成功した組体操 仲間を信じて登ったピラミッド

段をつくる瞬間 高まるみんなの緊張 絶対に崩れないと確信した

修学旅行 地上戦がくりひろげられた沖縄

亡くなった人の数ではなく

その一人ひとりに大事な生活があった 悲しむ家族がいた

みんなの言葉を紡いで作った平和宣言

たくさん名前が刻まれた慰霊碑の前で群読をしました

「戦争を繰り返さない」この誓いが届きますように

ガマの中の異様な空気

戦争のときのまま 残された生活用品

灯りを消したときの 息がつまりそうな感覚

自分の手が見えなくなるぐらい暗いガマでは

生きている心地がしなかった

このような場所で暮らしていたのかと思うと胸が痛んだ

「どうしても本物のガマを見てほしい」先生の言っていた意味がわかった
沖縄を選んできて 私たちを信じてくれて ありがとうございます

沖縄の海は引き潮で 想像していたような海とは違った

そんなことも笑い話にできる仲間と 同じ景色が見られて良かった

早くみんなに見せたい！ そう言って何日もかけて用意をした学年レク

最後はクラス関係なく ただひたすら楽しんで

お土産をいっぱい買った 国際通り

おいしいお店を教えてくださいましたおばあさん

現地の方のやさしさにふれました

帰りの空港 三日間がとても楽しくて まだ帰りたくないと思ったのに

迎えに来てくれた家族の顔を見ると 早く帰って話したくなった

部活動に入部したての頃は 嫌いだっただ基礎練習

それでも 誰よりも上手になりたいと 誰よりも必死に練習をした

一年生のころは練習を覚えて こなす日々だった

追いかけていた先輩たちは引退してしまい

ついにとおずれた 自分たちの世代

キャプテンという立場は想像以上に辛かった
目の前に誰もいない道は 行き方がわからなくて
迷路に迷い込んだようだった
ゴールを作り上げるのは私たち 仲間と支え合い一歩ずつ進んできた
仲間が聞いてくれないときは気付くまで待ってみる
チームの力を高めようと毎日必死だった
「キャプテンはお前しかおらんわ」
チームメイトがかけてくれた最高の褒め言葉で
その一言で 全て報われた気がした

最後のコンサート、残り何曲：
最後の音が完全に無くなったとき拍手と共に寂しさがこみあげてきた
支えてくれた人への感謝の気持ちを込めて試合に臨んだ
不安を分け合うように 組んだ円陣 いつもの掛け声
緊張でふるえる背中を みんなが力強く押してくれた
静まりかえった会場 心臓の音が聞こえるほどだった
日々の練習を信じて放ったシュートは決まった
負けても悔いの残らないようにと 必死で戦ったのに
負けるとやっぱりくやしくて
人生ではじめて悔しいという思いで涙を流した

在校生のみなさん 引退までの時間は長いようで短くて
もっとうすれば良かったという思いがあふれるけれど
引退があるからこそ 成長や感謝の気持ちを感じられるのだと思います
今まで一緒に戦ってくれてありがとうございます
また新たな歴史をつくってってください

将来の夢が決まってから
自分が勉強する意味が少しわかってきたような気がした
勉強をしなくてはいけないと思っただけれど やる気が出ない
隣で勉強をしている友だちを見て あと少し頑張ろうと思えた
何度も言われた「受験は団体戦」という言葉
はじめて意味がわかった気がした

入試の直前は「本当の自分」が出ると思う
勉強しなくてはと思いつつも 何を勉強したらいいのかわからない
入試が近づくにつれて不安が増え 心が裂けそうになる
しんどいからやめよう ではなく しんどいけれどがんばろう
そんな人になりたい 最後は笑顔で卒業したい

毎日学校から帰ると 学校での出来事を家族と話した
家族はいつも笑顔で「楽しそうだね」と聞いてくれました
仕事もあって疲れているのに
私が夜勉強していると一緒に起きていてくれた

最近は何カばかりだけれど
その一言が自分のためだと気付いて うれしくもあり
反抗してしまったことに 悲しくなる
お父さん お母さん 今までありがとうございます
これからは素直に感謝を伝える人になります

卒業が近づいてきて みんなと離れて遠くの学校へいくのが嫌になった
あたり前に教室にいき みんなと笑い授業を受ける
本当はこれが一番だと気付いた

楽しくて クラスで笑い泣きしたことも
意見が合わず ケンカになった日のことも
私のなかで美化されることなく
大人になってもきつと 思い出されることでしょう

この三年間 私たちは
たくさんの人に支えられながら 大人の階段を駆け上がってきました
新たなことに挑戦するとき 不安で押しつぶされそうなとき ふと思いついた
先生の「勝負の時こそ一歩飛びこんでいくこと」という力強い一言
これからも忘れることはありません
立ち止まることなく それぞれの道を走り続けましょう！

令和二年 三月十日 卒業生代表 浦井 魁斗
高戸 桜菜

3年生のみなさん、ありがとうございました

3月10日の卒業式で、聞くことができなかった3年生からのメッセージです。新型コロナウイルスの関係で、今年は卒業式に在校生が参加できませんでした。送辞や答辞、歌もない例年とはちがう形でしたが、卒業式が行われ、146人が巣立っていきました。

休校になる前日に3年生が歌ってくれた「旅立ちの日に」に心が震えました。3年間の成長が凝縮された歌声でした。泣きながら歌っている人もいましたね。みなさんも2年後、今の3年生に負けないように成長し、それぞれの進路へ堂々と踏み出していけるように、と願っています。

